

1 受賞団体・個人の名称

いわさき まさとし

岩崎 政利（長崎県雲仙市）



（問い合わせ先）

長崎県島原振興局雲仙地域普及課 Tel 0957-63-0462

（経歴）

昭和56年頃、化学農薬・化学肥料に頼った農法に疑問を持ち有機農業に取組み始める。輪作体系の確立、不耕起栽培、有機農法に適した種の育成にも取組み、販売における流通業者、消費者、料理人とも連携し活動している。

2 生産面の取組

①土づくりの実践・工夫

春野菜収穫（5月～6月）、秋野菜作付（9月）の輪作体系の圃場では、夏季の約2ヶ月間・緑肥としてマメ科植物を栽培（鋤きこんで土中の窒素補給、空気中の窒素固定、忌避効果を期待）している。

他の圃場は肥料として、牛糞に発酵酵素、米ぬか等を投入し、1年間熟成（2～3回切返し）させ、作付前に2t/10a程度施用している。

②耕種的、物理的防除の実践・工夫

葉菜類などの育苗期の立枯れ防止のため、竹酢を使用している。

ヨトウムシ類、コナガの害虫被害回避のため、秋野菜は9月中旬以降に播種を行い、害虫被害を回避できない場合は、防虫網やパスライト等によるベタがけ栽培を行う。

また、長年輪作体系を研究しており品目別の作付を行っている。

③在来品種など有機農業に適した種苗の生産・活用
少肥で病害虫に強く有機農業に向く品種を採種している。

50種類の野菜は在来種（古くから地元に伝わる昔ながらの野菜）、固定種（別の場所からきてその土地に根付いた野菜）を選抜し自家採種している。



3 経営面の取組

①販売における流通業者、消費者、料理人との連携

「買って食べてくれる消費者が有機農業を支えてくれる大事な支援者」であることを基本に、全て1対1の宅配形式をとり、季節の野菜詰め合わせセットを長崎県内、福岡、阪神、関東の第の大消費地まで約100ヶ所出荷している。

4 取組の成果

①自家種採による種の保存と有機栽培の新たな展開

自家種採により種の保存を行い、その種子を生かし無肥料栽培の拡大有機肥料の減肥など有機農業に適した品種への選抜を行っている。

②雲仙こぶ高菜再生プロジェクト

岩崎氏が種子採取・育成した雲仙こぶ高菜について、生産規定を設け、指導を行う中生産者が拡大し、生葉出荷の他惣菜、加工品生産までつながり、平成17年には雲仙ブランド認定となった。



5 地域社会への貢献

①消費者・実需者等との交流会・研修会の開催

長崎市や諫早市等との消費者とのほ場での生産状況の見学や料理教室、意見交換会、野菜料理の試食会などで交流している。

②体験学習の実施、学校給食での利用促進

雲仙こぶ高菜等の伝統野菜を使った体験学習が行われている。雲仙こぶ高菜の漬物は、学校給食で活用されたり、観光地雲仙旅館街ではお土産品として利用されている。

